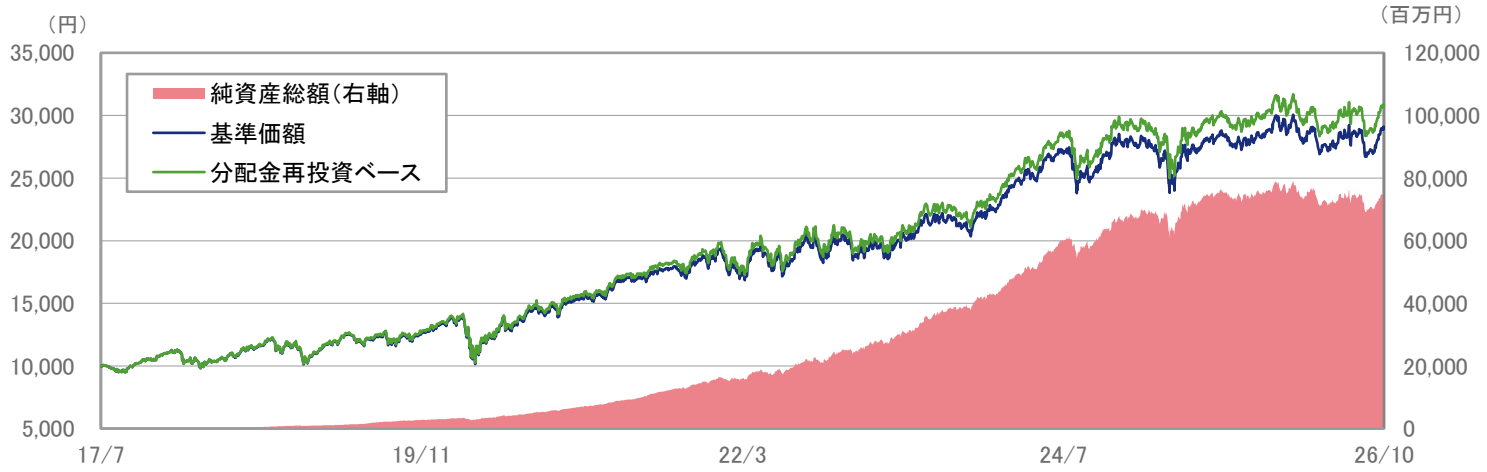
マンスリーレポート

農林中金＜パートナーズ＞長期厳選投資　おおぶね　（基準日：2026年10月30日）　販売用資料

設定日：2017年7月5日　償還日：無期限　決算日：6月20日（休業日の場合は翌営業日）　追加型投信／海外／株式

■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金（課税前）を再投資したものとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
　また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額（分配金再投資）	
	（円）	騰落率（%）
当月末	30,911	－
過去1ヵ月	28,733	7.58
過去3ヵ月	30,118	2.63
過去6ヵ月	30,486	1.39
過去1年	29,487	4.83
過去3年	21,250	45.46
設定日来	10,000	209.11

※1 基準価額騰落率（分配金再投資）は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金（課税前）を再投資した場合の騰落率です。また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額（円）	29,100	27,050	＋2,050
純資産総額（百万円）	74,986	70,178	＋4,808

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額（円）	日付
設定来高値	30,067	2026年3月3日
設定来安値	9,504	2017年8月21日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日 ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用資産構成比率

ファンド		比率(%)
外国株式		96.5
	現物	96.5
	先物	－
短期資産等		3.5
合計		100.0

※1 比率はベビーファンドの実質組入比率（純資産総額比）です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金（課税前）（円）
2026/06/22	220
2025/06/20	130
2024/06/20	300
2023/06/20	200
2022/06/20	60
2021/06/21	110
設定来合計	1,230

※ 1万口当たりの実績です。

■ 運用概況

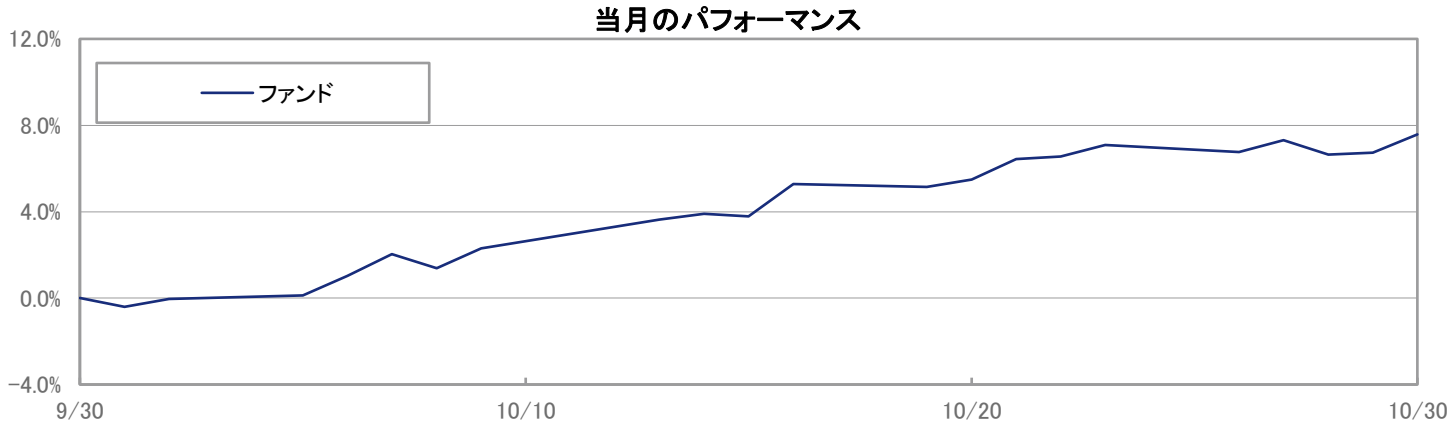
当月末の基準価額は、29,100円（前月比＋2,050円）となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は＋7.58%となりました。

■ 9ページの「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

農林中金＜パートナーズ＞長期厳選投資　おおぶね　（基準日：2026年10月30日）　販売用資料

追加型投信／海外／株式

■ 10月の運用状況



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

＜マザーファンドの運用状況＞

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	業種	組入比率(%)
1	TEXAS INSTRUMENTS INC	情報技術	7.1
2	S&P GLOBAL INC	金融	5.5
3	AMPHENOL CORP-CL A	情報技術	5.1
4	VISA INC-CLASS A SHARES	金融	4.7
5	LINDE PLC	素材	4.5
6	FASTENAL CO	資本財・サービス	4.5
7	CINTAS CORP	資本財・サービス	4.5
8	ZOETIS INC	ヘルスケア	4.4
9	ILLINOIS TOOL WORKS	資本財・サービス	4.4
10	DEERE & CO	資本財・サービス	4.3

※ 比率は外国株式現物対比です。

組入銘柄総数：　26銘柄

■ 業種別組入比率

業種	ファンド（%）
資本財・サービス	26.5
金融	16.8
ヘルスケア	15.2
一般消費財・サービス	14.6
情報技術	12.2
生活必需品	7.8
素材	6.9
合計	100.0

※ 比率は外国株式現物対比です。

■ 9ページの「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

農林中金＜パートナーズ＞長期厳選投資　おおぶね

販売用資料

追加型投信／海外／株式

■ おおぶねシリーズの運用哲学

おおぶねシリーズは、北米企業を投資対象とする「おおぶね」、日本企業を対象とする「おおぶねジャパン」、先進国グローバル企業を対象とする「おおぶねグローバル」の 3 ファンドで構成されています。投資対象地域は異なりますが、その根底に流れる運用哲学は 3 ファンドすべてに共通しています。

一般的に「投資」とは中短期の相場変動を収益化する売買行為だと思われがちです。私たち運用チームは 2007 年の創設以来、この投機的なイメージとは一線を画し、「構造的に強靭な企業®」が持つ「稼ぐ力」を源泉とした長期資産運用を一貫して追求してきました。おおぶねシリーズは、機関投資家向けに培ったこの哲学を個人投資家の皆様にもお届けするべく設定された公募投信です。

■ 構造的に強靭な企業®の 3 要件

私たちは、以下の 3 つの要件をすべて満たす企業を「構造的に強靭な企業®」と定義し、長期保有の対象としています。

【要件①】付加価値の高い事業であること――「必要か？」

企業の本来的な存在意義は、顧客・社会が抱える問題や「困りごと」を解決することです。その問題解決の対価が利益であり、付加価値の低い事業は企業の長期的な存在意義そのものに疑問符がつきます。顧客・社会にとって真に必要な財・サービスを提供しているか――これがすべての出発点です。

【要件②】圧倒的な競争優位性を持つこと――「強いのか？」

付加価値の高い事業であっても、誰でも参入できる状態では高い収益性を長期間維持できません。競合他社が参入を躊躇するような「参入障壁」――ブランドや特許などの無形資産、高いスイッチングコスト、ネットワーク効果、コスト優位性など――の存在こそが、持続的な高収益を可能にします。NVIC では長年の運用経験を通じてその類型化を積み重ねてきました。

【要件③】長期的な潮流に乗っていること――「続くのか？」

強固な参入障壁を持っていても、事業領域が長期的に縮小していては持続的な利益創出は不可能です。ここで言う「長期潮流」とは、人口動態のような不可逆的な事象を指し、市場で語られる「今ホットなテーマ」とは異なります。この基準は、①②があってはじめて意味を持ちます。

■ 受益者の皆様へ提供する 2 つの価値

おおぶねシリーズが受益者の皆様にお届けする価値は、大きく 2 つあります。「合理的なパフォーマンス」と「手触り感」です。

【価値①】ポートフォリオ企業の企業価値増大に連動したパフォーマンス

おおぶねシリーズのリターンの主たる源泉は、「構造的に強靭な企業®」群が時間をかけて実現する持続的な企業価値増大です。中短期の相場変動に賭けるものでも、市場テーマに乗るものでもありません。即ちおおぶねシリーズは「市場インデックスから離れる」ことを意図的に選択しているので、インデックスをベンチマークとしていません。

私たちが「構造的に強靭な企業®」を正しく選び抜けているかどうかを事後的に確認する指標のひとつが、投下資本利益率（ROIC）です。本来的に素晴らしい経済性を有した企業は、結果として高位安定した ROIC を持続的に実現します。ROIC は企業選択の評価基準ではなく、あくまでも構造的強靭性の証左、運用の成果として現れる数値です。年率平均 7%～10%程度の ROIC が継続した場合、理論的な価値はおおむね 10 年で 1.7 倍～2.0 倍以上となる計算であり、これがおおぶねシリーズの長期保有によって合理的に見込むことのできるリターンの目線です。本文末に「おおぶね」のポートフォリオ企業群の加重平均 ROIC を開示いたしました。これは月次報告書（基準日：2026 年 4 月 30 日）で新たに開示を始めたものですが、今後も年次で更改開示いたしますので、ポートフォリオ企業の「稼ぐ力」をご確認ください。

もちろん、企業価値の増大は中短期的には株価に必ずしも直接リンクするわけではありません。しかし、ベンジャミン・グラハムの言葉「市場は短期的には美人投票だが、長期的には計量器である」の通り、長期的には株価に反映されうると考えています。

【価値②】長期投資を可能にする「手触り感」の提供

長期投資を継続するためには、保有企業の「稼ぐ力」に対する納得感――すなわち「手触り感」――が不可欠です。リーマンショック、東日本大震災、コロナパンデミック、トランプ関税……予測できないタイミングで予測できないマグニチュードの相場変動は必ず起こります。そのような局面で、保有企業の経済性（付加価値・競争優位・長期潮流）が損なわれていないという納得感があれば、相場の下落こそ長期投資家にとってのチャンスとなります。逆に、「なんとなく」保有しているだけでは、大きな下落を前に狼狽売りを招き、長期的な資産形成がその時点で止まってしまいます。

■ 9ページの「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

NVIC は月次運用報告書や受益者向け「おおぶねメンバーズカンファレンス」、年次の「おおぶね年次総会」において、組入れ企業の「稼ぐ力」に関する仮説や気付きを継続的にご共有します。この「手触り感」こそが、オーナーとしての長期投資の握力を生む鍵だと考えているからです。

さらに、保有企業の経済性を読み解く過程は、日々の仕事にも直結します。顧客が本当に求めるものは何か、自社の競争優位の源泉はどこにあるか、長期的な潮流に乗っているか――こうした「インベスターシンキング」の視点は、ビジネスパーソンとしての問題発見力・仮説構築力を高める実践的な気付きにもなります。おおぶねシリーズへの投資は、単なる資産形成にとどまらず、日々の仕事の質を高める知的投資でもあるのです。

■ 投資とはオーナーになること

投資とは、素晴らしい企業の「オーナーになること」です。相場動向に一喜一憂するのではなく、「構造的に強靭な企業®」の稼ぐ力を長期にわたって享受すること――それがおおぶねシリーズの運用哲学の核心です。NVIC の乗組員一同は、「おおぶね」という船の舵取りの責任を担いながら、受益者の皆様とまさに同じ船に乗っています。

＜「おおぶね」ポートフォリオ企業群の ROIC 推移＞



＜定義＞

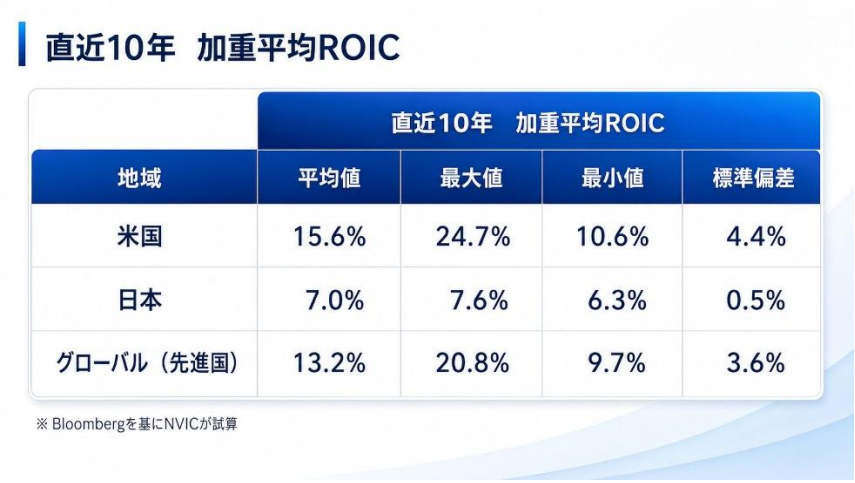
ROIC：税引き後営業利益/（（純資産＋有利子負債＋貸倒引当金＋繰延税金負債＋未払税金）の期中平均）

ポートフォリオベースの加重平均 ROIC：組入れ企業の上記 ROIC を前会計年度末時点（おおぶね・おおぶねグローバル：12 月末、おおぶね JAPAN：3 月末）の実績ウェイトで加重平均して試算

更新タイミング：毎年 4 月（おおぶね・おおぶねグローバル）、毎年 7 月（おおぶね JAPAN）

加重平均 ROIC は 16.6%と、本文で言及した ROIC7%～10%のレンジ内以上に位置するものであり、理論的な価値は 10 年間で 1.7 倍～2.0 倍以上を期待できるものと言えます。

＜参考情報＞　各地域の ROIC 平均表



	直近10年　加重平均ROIC			
地域	平均値	最大値	最小値	標準偏差
米国	15.6%	24.7%	10.6%	4.4%
日本	7.0%	7.6%	6.3%	0.5%
グローバル（先進国）	13.2%	20.8%	9.7%	3.6%

■ おおぶねシリーズのオーナーズマニュアル

おおぶねシリーズの運用哲学などについては、おおぶねを理解するための基本マニュアルとして、農林中金バリューインベストメンツがホームページで開示しているオーナーズマニュアルをご参照ください。

https://www.nvic.co.jp/support/manual/

※上記の記載は、受益者向けに運用哲学を開示するため、農林中金バリューインベストメンツから提供されたもので、将来の市況・環境の変動・正確性等を保証するものではありません。

■運用コメント

【当ファンドの助言会社である農林中金バリューインベストメンツのコメント】

1．市況動向

レポート対象期間（9/29～10/29）の米国株式指数は上昇しました。AI関連企業の資金調達や巨額の設備投資に対する懸念からハイテク・半導体関連株が売られた一方、生活必需品やヘルスケアなどのディフェンシブ株に資金が向かいました。

2．運用状況

●当ファンドの円換算後リターンは＋7.58%（為替要因＋0.08%、株価要因等＋7.50%）となりました。
●レポート対象期間の主な個別銘柄の変動要因は以下の通りです。

【上昇銘柄】

①トレードウェブ・マーケッツ：債券市場の電子取引プラットフォーマー

9月の月次取扱高が好調だったことに加え、クレジット市場における競合であるTrumidの買収を発表したことが好感され、株価は上昇しました。

②S＆Pグローバル：格付・指数事業などで世界的シェアを有する金融情報サービス会社

AIインフラ投資の資金調達や設備投資の継続性に対する懸念が高まる中、それまで「SaaSの死」の懸念からバリュエーションが低下していた当社の株価は上昇しました。さらに７-９月期決算での通期見通しの上方修正も追い風となりました。

③ベリスクアナリティクス：損害保険会社向け情報サービス会社

AIインフラ投資の資金調達や設備投資の継続性に対する懸念が高まる中、それまで「SaaSの死」の懸念からバリュエーションが低下していた当社の株価は上昇しました。

【下落銘柄】

①ディア：世界最大手の農機メーカー

FTCおよびUSDAによる農機業界の競争環境に関する調査開始に加え、USDA需給見通し（WASDE）でトウモロコシ生産見通しが市場予想を上回り、農産物価格の下落を通じて農機需要への懸念が高まったことが嫌気され、株価は下落しました。

②アンフェノール：世界大手のコネクタメーカー

足元で最も成長率の高い製品仕向け先となっているAIインフラ関連の資金調達や設備投資の継続性に対する懸念が高まったことが嫌気され、株価は下落しました。

③サービスコーポレーション：デスケア（葬儀・墓地）サービス会社

7-9月期決算において、前年同期比4.6%増収、営業利益は11.7%増の悪くない決算ながら、EPS（一株当たり利益）がコンセンサスに若干届かなかったこと、およびヘルスケアコストや営業経費、広告宣伝費の負担増を主因として通期見通し（レンジ）の引き下げがあったことが嫌気され、株価は下落しました。

3．運用方針

当ファンドとしては、一時的な相場の混乱や市場テーマの変遷に一喜一憂することなく、「構造的に強靭な企業®」が持つ本源的価値、すなわち長期にわたり持続する「稼ぐ力」（ROIC）に根差した分析とポートフォリオ運営を変わらず行っていく方針です。投資先企業の決算精査や企業訪問、新たな投資先候補の発掘に向けた分析などを通じて、企業分析の深化を図っていきたいと考えています。

【おおぶねメンバーズサイトについて】

投資先企業の紹介やNVICの投資判断につきましては、一般に広く公開するのではなく受益者様だけに届けるべき貴重な情報であると考えております。そのため、当レポート上では内容を公開せず、受益者様限定の「おおぶねメンバーズサイト」だけで公開させていただいております。受益者の皆様にはお手間を掛けてしまうかもしれませんが、ご理解いただければと思います。

当サイトのURLにつきましては、「おおぶね」を購入いただいた販売会社様にお問合せいただくか、農林中金バリューインベストメンツ（**ohbune@nvic.co.jp**）までメールにてお問合せください。また、上記のとおり、受益者様限定のサイトとなっておりますので、受益者様であることが証明できるもの（※）もあわせてご送付ください。

※個人情報、金額、口数等は不要で、黒塗りしていただいて構いません。「おおぶね」を保有していることが分かれば大丈夫です。

企業の解説を行う月次レポート

NVICが長年の経験で培った投資ノウハウや投資先企業に対するNVICの視点について、受益者様限定で手触り感のあるご説明をさせていただきます。NVIC公式HPにて「ABCマートのケーススタディ」を特別に公開しておりますので、ぜひご覧ください。



公開レポートはこちら

おおぶねメンバーズカンファレンス

「おおぶね」シリーズの受益者様への説明のために毎月開催しているオンラインミーティング（リアル開催有り）。運用報告や投資先企業の分析結果などを解説しております。リアルタイムでCIO奥野一成・アナリストにチャット機能を使って直接質問し、投資の心配事や疑問を解消いただけます。また、カンファレンスに参加できなかった方向けに、メンバーズサイトにおいて直近3か月限定で見逃し配信をしております。



解説動画はこちら

※上記のコメントは10月末時点のものです。また受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため農林中金バリューインベストメンツから提供された情報を元に農林中金全共連アセットマネジメントが作成したもので将来の市況環境の変動正確性等を保証するものではありません。

■ 9ページの「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

商品の特色

■ 圧倒的な競争力を有する企業への長期厳選投資により投資信託財産の中長期的成長を目指すアクティブファンドです。
■ 米国の上場株式を主要投資対象とします。
■ 徹底した深い海外企業調査を通じて、①付加価値の高い産業、②圧倒的な競争優位性、③長期的な潮流の3つの基準を満たす「構造的に強靭な企業®」に長期厳選投資を行います。
■ 組入外貨建資産については、原則として為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは行いません。
■ 農林中金バリューインベストメンツ株式会社（NVIC）より投資助言を受け、ポートフォリオを構築します。
■ 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。

■ お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。（詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。）
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限（設定日：2017年7月5日）
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年6月20日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎年6月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者（受益者）に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年6月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者（受益者）に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」及び「つみたて投資枠（特定累積投資勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

※確定拠出年金制度に基づく申込の場合は、取扱いが一部異なる場合があります。
※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

■ 委託会社、その他の関係法人

■委託会社　：　農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第372号
一般社団法人 資産運用業協会会員）
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

■受託会社　：　農中信託銀行株式会社
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

■販売会社　：　最終ページをご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

■ 9ページの「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託（以下、「当ファンド」という。）をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。
お申し込みの際には、下記の事項および投資信託説明書（交付目論見書）の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて実質的に株式など値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、投資者（受益者）の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。
ファンドの運用による損益は、すべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。
投資信託は、預貯金と異なります。
当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」「為替変動リスク」などがあります。
※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	＜通常の申込＞ 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。 ご購入時の手数料率の上限は2.2%（税抜2.0%）です。 ＜確定拠出年金制度に基づく申込＞ 無手数料
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用（信託報酬）	毎日、純資産総額に年0.99%（税抜0.9%）を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	以下のその他費用・手数料については、信託財産中から支払われます。 ・監査法人等に支払うファンドの財務諸表の監査に要する費用 ・有価証券売買時の売買委託手数料 ・先物取引・オプション取引等に要する費用 ・資産を外国で保管する場合の費用　　等 監査費用は毎日計上し、毎計算期間末または信託終了のとき、その他の費用等はその都度信託財産中から支払われます。 ※定期的に見直されるものや運用状況等により変動するものがあるため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

留意事項

■ 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社（以下、「当社」といいます。）が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■ 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見通しにつきましても、その確実性を保証するものではございません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。

■ 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくことになります。

■ 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金（貯金）保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

■ ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

取扱い販売会社情報一覧表

※販売会社は今後変更となる場合、また、下記以外にもお取り扱いを行っている販売会社がある場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申し込みを停止している場合もあります。詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	備考
岡三証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○	
株式会社ＳＢＩ証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○		
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○				
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○		
大和コネクト証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3186号	○				
株式会社八十二長野銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第49号	○		○		
JAバンク（JA/信連/農林中金）	お取り扱いについては、委託会社（農林中金全共連アセットマネジメント株式会社）までお問い合わせください。 （注）一部のJAバンクでは、お取り扱いがない場合がございます。						

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。
■農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
ホームページ：https://www.ja-asset.co.jp/
フリーダイヤル：0120-439-244（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

お申し込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は販売会社へお申し出ください。